

目的 70年以降高層住宅の建設が活発化してきていゝなかで、子供の住環境としての高層居住にいろいろ諸問題が注目されてきている。従来、公共の郊外型団地計画の子供の住環境における計画理念は「子供の発達段階に応じ、かつ相互の交流を図る」というものでオープンスペースの計画が主であった。その計画理念は市街地開発高層団地にも引つがれ、住棟の高層化による諸々の問題が生じてきた。そこで本研究では、子供の住環境としての都心型市街地高層住宅がもつ問題と明確にし、その対応を検討する。

方法 ①高層住宅における子供の住環境に関連する文献・研究論文の収集と分析 ②典型的高層住宅（芦屋決シーサイドタウン、森の官サニ、兵庫駅前市街地住宅、広島基町、サンシティ）の実態調査（5/6/90～4） ③調査団地居住者（自治会・子供会関係者等）及び保育園、小学校、児童館関係者へのヒアリング調査

結果 高層住宅に住む子供の行動について、母親への依存傾向の強さ、遊び時間の減少、遊びの内容、迷子等子供の発達段階での問題が指摘されているが、これらは高層化、高密度大規模化、建築計画技術上の問題が複合的に関連している。高層化については、エレベータの上下移動により孤立する外遊びへの母親の抵抗感や子供の高さに対する心理的影響、領域論的に見た空間の段階構成の欠如、高密度に関しては匿名性の高い空間的環境の問題、技術的には各部のデザイン・色彩や住棟内共用スペース上の問題等があるが、高層居住を否定するのではなく、建築技術的に解決策を配慮し、同時に居住者自身が近隣との交流を活発化すること、高層階居住における住み方と確立していくことが重要である。